

# あだたら

六月二十一日 (火)

## 六月山行、南蔵王・屏風岳

報告 □□□□

第404号  
発行所 山形県赤松市  
編集 山形県あだたら部



屏風岳山頂

天気予報から判断し、月例山行を奥白根山から蔵王山(屏風岳)までの山行に変更し、六名で実施しました。J・A二本松グリーンセンター五時半集合で出発し、途中松川で□□□□さんが合流し、途中白石のコンビニで朝食、昼食を調達し、七時四十分刈田岳第四駐車場まで朝食を済ませ、八時十

分登山開始。駐車場からハクサンチドリが咲き誇り、九時二十分前ヶ岳までヤシオツツジ、マイヅルソウ、ツマトリソウ、ハクサンチドリが、これでもかと、それぞれが主張をし、登山者を迎えてくれていました。九時四十六分、杉ヶ峰(一、七四五m)で休憩し、十時十三分、芝草平で小休

止し、満開との情報を得ていたチングルマは帰りの楽しみにし、シヨウジョウバカマ、イワウチワ、アヅマシヤクナゲ、ヒナ桜、そして家へ戻り調べたハンシヨウツルの美しさに大満足の山行でした。サンカヨウは一輪のみでした。天候は良く、程々に風も吹き暑さも程よく、会話もはずみ、登山道も福島山とは比べられないほど整備され、ヌカルミは殆ど無い程木道、平たく並べられた石段により、感謝するばかりでした。十一時五分、屏風岳に到着し、十一時三十分下山するまで、飯豊山や廻りの山々に見とれました。昼食は十二時十分芝草平でゆっくり済ませ、さっそく湿原植生群生地へ。すぐにチングルマが群生して、なかなか無いタイミングの山行で、一週間前に芝草平まで行った菅野善雄さんからの情報はおおいに助かりました。十二時五十二分、芝草平を出発し、十四時十分、刈田岳第四駐車場へ到着しました。最後の駐車場までは車道を五回も渡り、急斜面三十分も登らなくてはならず、これが厳しく疲れた体には大変で

した。三時五十分、青根温泉、じゃっぼの湯(三五〇円)で入浴をしました。少し熱め、二十分も入ると汗が吹き出し、疲労がとれる感じがしました。二本松へは十八時三十分到着をしました。山行中、次回定例山行の打合せすることも出来ました。運転をして頂いた□□さんに感謝します。やっぱり多くの人が参加する定例山行は充実感があります。

●編集部連絡先  
二本松市部内1-5-15  
0243(22) 4245  
Fax可 渡辺 正



ハイラインの第4駐車場、背景は南蔵王連峰

した。三時五十分、青根温泉、じゃっぼの湯(三五〇円)で入浴をしました。少し熱め、二十分も入ると汗が吹き出し、疲労がとれる感じがしました。二本松へは十八時三十分到着をしました。山行中、次回定例山行の打合せすることも出来ました。運転をして頂いた□□さんに感謝します。やっぱり多くの人が参加する定例山行は充実感があります。



芝草平のチングルマ

実は、二〇〇〇年十二月五日(火)にも野手上山に行っていた。会報一五八号があったので、印刷して持参した。九時に松川駅で□□さん、その後飯野支所で□□□□さんと合流、川俣を経て国道三九九号を「水境」の峠に登る。実はこの道は、会社員だった三千年程前の原町のお客さんに通うの



10時37分、野手上山頂の祠

に、しよっちゅう通っていた道だ。ここいらあたりから記憶と道が違ってきた。二枚橋の部落バイパス出来ていた。その先の白石の部落にもバイパス出来ていた。少しウロウロして、野手上山の案内看板見付けたので、白石から南下して、野手上山目指した。

続きは二面

## 五月二十九日 (日) 五月山行、飯舘村・野手上山

報告 □□□□

# 春の僧悟台登山道整備作業

報告 □□□□・□□□□

六月十九日 (日)



7時55分、塩沢スキー場出発

□□さんと一緒に一本松を目標に登るが日頃の運動不足と湿度が高くいつものように調子が出ない。この時期、熱中症患者が多いのも暑さに体が慣れていないからとの話でまったくその通りで、いつも以上に草刈り機が重く感じた。

予定通り十一時に水場手前に到着して、そこから荷物をデポして作業をしながら水場まで移動。時間も足らず綺麗にはできなかったが通行に支障がない程度には整備完了。水場は雪解け水で浅く、広い川のようになっていた。お昼を食べていたら雷鳴と小雨が降ってきたのでツェルトを出して昼食。作業しながら下山して来ました。四人ほど登山者とはずれ違い、あまり天気の良い予報でも登るも

の好きはいるのだなくと思っていたがそれくらい山が好きで充実した一日を過ごせたのなら良い事だと思ふし、少しは役に立ててるかと思つて下山。



下一本松の東シャクナゲ

十九日(日)、安達太良山僧悟台登山道で、整備作業を行った。この登山道は、塩沢登山口から入り二本松市塩沢と福島市土湯との境の溶岩台地を辿り、鉄山と箕輪山中間の笹平に至る、安達太良山では長時間を要するルート。他のルートと違って、樹林帯の草花で覆われた登山道が中心。初夏のこの時期は「ツマトリソウ(端取草)」「マイヅルソウ」「イワカガミ」「ゴゼンタチバナ」「アカモノ」等の背の低い小さな花が満開状態。頭上には田中澄江の「花の百名山」で紹介されている、「ウラジロヨウラク」「サラサドウダン」が開花していた。「花の百

名山」では、ツリガネツツジと言う別名も紹介されている。当日は、□□さんと夫婦も含めて、九名の参加者が、草刈機四台で、登山口から上一本松の先まで、登山道の「笹刈」を実施した。事務局は塩沢スキー場で参加者の写真撮って、荷物の後始末して遅れて出発した。他の参加者は奥の登山口入口に見えて居た。余裕だと思つて追いつけた。途中で草刈機の肩掛けバンド忘れた事に気が付き、レスキュー用の確保紐で代用したが、肩の負担大きい。で結局追いつけなかった。今回は事務局(□□□□)の行動だけの報告です。何とか僧悟台に上って、十一時五分、僧悟台分岐の上、去年見付けた八重ハクサンシャクナゲの所で、頭の上のまっ黒い雲から雨が落ちて来た。まだ先行者と合流は出来ていない。とにかく疲れ果てていた、例のない疲れようだったので、下山するしかないと思つた。せめて花の写真だけは撮ろうと思つたけど、下り初めて僧悟台分岐の下、樹林の中の刈払われた広い道、先には左への曲り角。突然曲り角から灰色の固まりが此方に来た。すぐ気が付いたが、カモシカだ。目と目が合った、と思つた瞬間、向こうは一羽ほど飛び上がり、向こう向きになって曲り角に

飛び込んだ。あつという間だった。空中で向き変えたとき、何となくセクシードったけど、雨の中だが、雨は「見晴らし岩」から、湯川溪谷に下りると、弱くなつた。「角松」下の「クジラ岩」で下から笹刈やりながら登って来た□□□□さんと遭遇。□□さんも下がるうとしていた。□□さんと□□さん夫婦も下山してきた。疲れていて、結局同行出来なかった。午後三時前には、何とかスキー場に辿り着いた。午後四時過ぎには全員無事に下山した。皆さん本当に疲れ様でした。



大鳥居、下に2人

## 野手上山(続き)

やがて「うつくしま百名山/野手上山遊歩道」の大きな看板見付けた。下がる道があるので、行ってみると、左側に見覚えのある大きな鳥居が現れた。野手上山の登山口だ。この先の長泥地区は、今でも原葬事故の帰還困難区域だ。

前回来たときは切りは伐採された直後で、原っぱだった。二十年後の今回、鳥居は深い木立の中にあつた。鳥居の後ろには広場、その奥に拝殿、裏側に本殿戸が開いていたので、中を拝見すると、奥に御霊代があり、奥に、御霊代があつた。右から、金山大神、山津見大神、古峯大神、蛇類明神、摩利支天尊の五柱だ。登山道は、本殿裏の階段から始まる。出発は九時二十六分。直ぐ樹林の中の道となり、道形もはっきりしている。「落石注意」の看板が現れると、急傾斜の木の階段となる。手入れは良くななく、折れたり外れたりしているものも多い。石ころも現れる、阿武隈山地に多いグリーンタフだ。急な箇所にはロープも張られている。三十分ほどで、中間地点の「黄金山大神」石碑到着。そこからは一度下って、再度急傾斜の道、階段も登って、十時二十分には、山頂に到着した。山頂も樹林の中だ。ここには、三基の石塔納めた社と展望台がある。社の場所、もっと奥だったように思うが定かでない。展望台に登った。木製で、□□さんが「床板折れるかも知れない」といふ、確かに真ん中に乗るときは、危ないので端っこの柱の在るところだけ歩いた。しかし見通しは良くない。

展望台の高さより周りの木が伸びてしまっている。一部切り開かれているが、おそらく、金華山方面、だが低い雲があり、海は見えなかったが。到着の記念に石祠の納められた社前で撮影。中に納められている祠、真ん中以外には倒れたままだった。後で立ち寄った「いいいたて村の道の駅までい館」にいた係の人に聞いたら「大震災以前はお祭りも盛んで、山頂の祠にお参りする人も一杯いたが、今は殆どいないようだ」と、言つて観光案内も載っている飯館電力の案内図くれたが、野手上山は無かった。登山する人も少なくなつていふという事か。扱、下山だが、「けやきの森」登山道を利用する事とした。ここまでの登り、結構きつく、壊れた階段などもあったから。扱けやきの森に下山、ちよつと藪が被さっているが、傾斜は緩い。階段も無い、石も転がっていない。同じ山の登山道とは思えないくらい優しく、緩やかだ。十一時十七分には「野手上ダム」のダム湖廻りの道踏著、四十分ほどで下山出来た。ここからは歩いて二十五分程で、鳥居のある登山口へ戻って、昼食とした。帰りはちよつと遠回りして、「道の駅までい館」経由で帰宅した。

湯川溪谷登山道に丸札道標設置  
報告 編集部

六月一日(水)



後列、左から2人目は、居合わせた、無関係の登山者

一日(水) 当会と二本松市都市計画課・観光課は、安達太良山湯川溪谷登山道に「サイン看板(丸札道標)」

設置を行った。塩沢スキー場の登山道入口が一番で、終点くるがね小屋が三十分、分数形式の表示で自分

の居場所が分かるようになっていて、毎年、十一月の降雪期前に取り外され、晩春のこの時期に設置される。今年五月二十七日に予定されていたが、悪天候で一日に延期された。当日は、当会から四名、市役所職員六名が参加した。塩沢スキー場で市役所が持参した丸札を並べて確認。全部揃っている事と、参加者に番号を選んで貰う。丸札、「一番」から「二十五」番までは、原則として、冬期間には、登山道から「下げて」市役所に保存。「二十六」番から「三十」番は「上げて」くるがね小屋に預かって貰う。今回は「二十七」番が破損で修理するため、下げたので、二十六枚を持ち上げる事となる。



出発前、丸札並べて確認

参加者の中でも年寄には、直ぐ取り付ける若い一番号を持たせ、若い者は「大きい」数字のものを持たせ、ようにする。特に一番から六番(金剛清水)くら

いまでは、手にぶら下げて、も、余り負担にはならない。若い番号の丸札は、比較的広い場所を取り付け作業で、公開用の写真の対象ともなる。以前は、取り付け場所には、小さな番号札だけ付けてあったが、当会の□□□□さんが昨年の取り外しの時、ピンクの目印テープも付けてくれた。そのため、取り付け場所の見えが容易になった。



9時27分、4番設置

丸札十九番の天狗岩下橋(一の橋とも)、今は橋設置せず、「飛び石渡り」になっている、今回の作業の時、□□さんが飛び石に「赤スプレー」で印付けてくれた。これで飛び石渡り、少しは楽になったと思われる。登山道では、登山口から

くろがね小屋迄、「狸々袴(シヨウジョウバカマ)」が咲いているが、登山口ではそろそろ終り、くろがね小屋では咲き初めと、育つ過程が見られた。くろがね小屋廻りでは、「紫八塩つつじ」「端取草(ツマトリソウ)」が開花しているし、足元には「銀竜草」「岩鏡」も沢山見られた。午後三時半には、無事塩沢登山口に下山した。



□□さん、飛び石にマークしてくれた

七月二日、安達太良山、オノエランが見頃(二十時十七分着信) □□□□さんから電話頂きました。『今日、七月山行、早池峰の足慣らしを兼ねて安達太良山に行ってきた。』

裏磐梯在住の会員、□□□□さんからメール頂きました。『ご存知かもしれませんが、今年からニッコウキスゲの時期に限り雄子沢駐車場が閉鎖となります。ラピスバヤトルバス運行します。環境協力金千円です。必要で



雄国沼、雄子沢駐車場使えない(六月十八日受信)

二本松市内は三十度越えの日、山は涼しい風が吹いていて、とても快適。ハクサンシヤクナゲ咲き始めて、まだ蕾が多い。オノエランは、峰の辻の上では、今日あたりが見頃。旅をするチョウ、アサギマダラ既に来ていた、八之字の辺りでも、金明水の辺りでも見た。食草ヨツバヒヨドリはまだだけど。(一日の市内の最高気温は三四・七℃でした)。

したら会員の皆様にお知らせ下さい。『十日迄ですが、来年の為にも。』

◆六月十五日、福島民報投書欄・みんなのひろば、□□□□さん、「シルバー人材センターで第二の人生送る」、年間約八ヶ月働いていらっしやるとのこと。  
◆七月三日、会員の□□□□さんから電話、山の仲間から電話で、湯川溪谷、馬返し橋渡りされていると言う。僧悟台登りたかったのだが諦めた由。橋材は残っているという話。  
◆四日、市役所観光課の□□□□さんからも同様の連絡、例会で話して、架け直しの作業になるかも。  
◆七月三日、□□□□さんから電話。実は五月八日の湯川溪谷登山道整備で怪我された。登山道整備が対象の「普通傷害保険」に届出したが、保険金下りた由。  
◆七月六日十五時三分、七月山行で早池峰山登った会員から電話で、無事下山した由、お風呂入って帰宅するとうい、お気を付けて。  
◆個人山行の記事下さい、メールだと有り難いので、が、手書きも歓迎、FAXも受信できます。

編集後記 四〇四号